

吾妻郡東部地区・歴史年表



刊行にあたって

人が住んでいるすべての土地には、必ず歴史があります。しかし、書かれない歴史は必ず忘れられます。記録も記憶も年々失われていく一方です。

自分たちの歴史は自分たちの手で残さなければなりません。

この吾妻郡東部地域歴史年表に記載されている歴史は、現在の中之条町、東吾妻町、高山村という吾妻郡東部地域の出来事です。いわばご近所史とでもいうべき吾妻郡東部のお隣同士の郷土史です。

自分たちの郷土の歴史を知りたいければ、この薄い冊子のページをめくるだけで事足ります。誰でも手軽に郷土の歴史をたどることができます。

私たちは、年表に記されたすべての先人たちの事跡の結果として、いま現在に居ます。これまでのあり方を振り返ることは、これから先の将来を考えることでもあります。郷土史年表は単に過去を記録するだけのものではありません。これから先の将来を考えるのに欠かせない史料でもあるのです。

未来が見えなくなったら、過去を振り返ってみましょう。きっと先人たちが残したヒントがあるはずです。

このたび、私たちはこの吾妻郡東部の郷土史年表をつくるにあたって、歴史の専門家や学者でなくても誰でもが、郷土の歴史を容易に年表化できるフォーマットを作りました。これを活用すれば、先行文献から歴史的情報を抽出し、さらに新しい時代の情報を加えるだけで、世界で唯一の自分たちの郷土史年表ができあがります。

日本国中の小さなふるさとの連合体で、こうした吾妻郡東部の郷土史年表が編まれ、自分たちの歴史を見つめ直し、自分たちの手で後世に残す文化的営為が広まることを願ってやみません。

オフィスSEKI

時代	国史	政治・社会	文化・その他	
先史時代	縄文式文化時代 弥生式文化時代 ・村の発生、小国家できる 紀元前1世紀頃 ・倭、小国分立する			
	57年 ・倭の奴国王、金印を受ける 2世紀 ・崇神の子活目尊（垂仁天皇）即位			
	4世紀 ・ヤマト政権の統一進む			
	5世紀 ・倭の五王、巨大古墳築造			
	538年 ・仏教公伝 ・この頃、祖先崇拝の気運盛ん 物部氏と拔針神社 上毛野氏と赤城神社			
	587年 ・蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす			
飛鳥時代	593年 ・聖徳太子が推古天皇の摂政に			
	607年 ・遣隋使派遣			
	630年 ・第1回遣唐使派遣			
	645年 ・大化改新 ・諸国に国司、郡司を置く			
		646年（大化2年） ・国郡の制が定まり諸国に国司、郡司がおかれ、この頃に吾妻郡が建置される《中》 《岩》 ・吾妻町原町館の地が郡家（郡の長官の治所）の地と推定される《岩》 ・この頃、吾妻三郷が成立《中》		
			670年頃 金井廃寺遺跡《原》	
	673年 ・天武天皇即位			
			686年（朱鳥13年） ・北箱島村小泉寺、創建、のち小泉に移る《太》	
奈良時代	701年 ・大宝律令できる			
	710年 ・平城京遷都 （奈良時代はじまる）			
	712年 ・古事記できる			
	720年 ・日本書紀できる ・その後、万葉集できる			

時代	国史	政治・社会	文化・その他
奈良時代		729年（天平元年） ・天平年間に、赤見山の歌、子持山の歌が万葉集に載る《高》	
		741年（天平3年） ・榛名山二ツ岳噴火《太》	
		770年（宝亀元年） ・この頃、万葉集に「そいの榛原のうた」収録《東》	
	784年 ・長岡京遷都		
平安時代	794年 ・平安京遷都 (平安時代はじまる)		
			795年（延暦14年） ・このころ天代廃寺が建立されたか《中》
	804年 ・最澄、空海入唐		
	805年 ・最澄、天台宗を開く		
	806年 ・空海、真言宗を開く		806年（大同元年） ・大同年間に、大戸長光寺創建と伝う《坂》
	858年 ・藤原良房、初の人臣摂政		
		862年（貞観4年） ・吾妻郡擬少領上毛野坂本朝臣真道のことが政事要略にみえる《中》	
			880年（元慶4年） ・稲妻地神、従五位下勲十二等が授けられる《中》
	887年 ・藤原基経、関白となる		
	894年 ・遣唐使廃止		
	901年 ・藤原道真、太宰府左遷		
	905年 ・古今和歌集成 ・この頃上野十二社定められる		
	927年 ・延喜式完成		927年（延長5年） ・延喜式が撰進され、中山神社が群馬郡の項に載る《高》 ・延長年間に、『和名類聚抄』に吾妻三郷（太田・永田・伊参）の名がはじめて見える《岩》
	935年 ・承平天慶の乱 ・地方に武士起る		
		947年（天曆元年） ・市代牧より名馬白波を朝貢するという《中》	
	985年 ・往生要集成		

時代	国 史	政 治 ・ 社 会	文 化 ・ その他
平 安 時 代			987年（永延元年） ・永延年間に、定光寺、知高熊野三社が建立されたという《中》
	1001年頃 ・枕草子成る		
	1010年頃 ・源氏物語成る		
	1017年 ・藤原道長、太政大臣に ・藤原氏全盛		
	1086年 ・白河上皇の院政始る ・この頃、源義家が武士の棟梁として威を張る		
			1127年（大治2年） ・奥田堀の内の宝篋印塔《東》
	1156年 ・保元の乱		
	1160年 ・平治の乱		
	1167年 ・平清盛、太政大臣に		
		1182年（寿永元年） ・吾妻八郎が神馬1頭を伊勢神宮においてを源頼朝に献ず（吾妻鑑）《中》《原》	
1185年 ・平氏滅亡			
鎌 倉 時 代	1192年 ・源頼朝、征夷大將軍に（鎌倉時代はじまる）		
		1195年（建久6年） ・源頼朝の奈良東大寺落成式の行列中に吾妻太郎あり（吾妻鑑）《原》	
		1199年（正治元年） ・正治年間に、大野氏が伊参城に居ると伝う《中》	
		1200年（正治2年） ・阿佐美氏、中山城主となる《高》	
		1204年（元久元年） ・鎌倉幕府、弓初の式の射手六人の中に吾妻四郎助光あり（吾妻鑑）《原》	
	1205年 ・新古今和歌集成成る		
		1214年（建保2年） ・阿佐美氏二代左衛門尉実高が中山城を築城《高》	
	1219年 ・北条氏執権政治始る		
	1221年 ・承久の乱	1221年（承久3年） ・承久の乱に吾妻四郎助光戦死と伝う《中》	
		1256年（康元年） ・長尾景熙、白井城を築城《東》	
	1261年（文応2年） ・阿佐美左近将監、鎌倉大札に出頭《高》		

時代	国 史	政 治 ・ 社 会	文 化 ・ その他
鎌倉時代			1270年（文永7年） ・ 沢渡温泉の板碑銘《中》
			1271年（文永8年） ・ 伊勢町林昌寺の板碑銘《中》 ・ この頃、善福寺の善光寺三尊仏 鑄造か《中》
	1274年 ・ 文永の役で元軍来襲		
			1275年（文永12年） ・ 南沢の板碑（弥陀来迎絵）、五 町田南沢寺の板碑《東》
	1281年 ・ 弘安の役で元軍再来		1281年（弘安4年） ・ この頃、稲裏神社の懸仏がつく られたか《中》
			1298年（永仁6年） ・ 「上野国神名帳」に吾妻郡の 十三座所載される《中》
			1332年（元弘2年） ・ 道覚上人、鎌倉に出向（又は同 3年）《中》
鎌倉幕府滅ぶ	1333年 ・ 鎌倉幕府滅ぶ		1333年（建武元年） ・ 道覚上人、鎌倉より帰り久福寺 を創建《中》
	1334年 ・ 建武新政		
			1335年（建武2年） ・ 折田滝沢の板碑銘《中》
室町時代	1338年 ・ 足利尊氏、征夷大將軍に （室町時代はじまる）		
			1342年（康永元年） ・ 山田善福寺が創建される《中》
			1344年（康永3年） ・ 下沢渡宗本寺の宝篋印塔銘 《中》
			1345年（文和元年） ・ この頃文和・延文年間に「神道 集」成立、鳥頭神社の名がはじ めて見える《岩》
		1349年（貞和5年） ・ 碓氷の里見氏と戦い、吾妻太郎行盛戦死す 《東》	1349年（貞和5年） ・ 岩井長福寺の五輪塔銘《東》
		1351年（観応2年） ・ 阿佐美三郎が足利直義に属し、梶原孫七の 首級をあげる《高》	
			1354年（文和3年） ・ 伊勢町海蔵寺の名が海蔵寺の碑 文にみえる《中》
室町幕府		1355年（文中4年） ・ 新田義宗が宗良親王を奉じて吾妻に陣す 《岩》	
		1356年（延文元年） ・ 延文年間に、行盛の遺子千王丸が岩櫃城を 回復し、斎藤越前守憲行と称す《原》	1356年（延文元年） ・ 延文年間に、斎藤憲行が川戸首 宮明神を創建、岩井長福寺に行 盛の供養塔を建つ《原》 ・ 延文年間に、『神道集』に和利 宮の名が初めてみえる《中》

時代	国 史	政 治 ・ 社 会	文 化 ・ その他
室			1361年（康安元年） ・三島浄清寺板碑銘（浄清寺創建か）《岩》
			1362年（貞治元年） ・内出城主が大旦那となり僧識阿を開山とし、川戸に浄土宗西山派の檀林善導寺を創立（寺伝）《原》 ・青山円通寺創建という《中》
			1369年（応安2年） ・横尾の板碑銘《中》
			1383年（永徳3年） ・厚田カジ村の宝篋印塔《岩》
		1384年（元中元年） ・青山師重が尹良親王を奉じて青山郷による《中》	
町	1392年 ・南北朝統一		
			1394年（応永元年） ・岩櫃城主斎藤行禪が岩下に応永寺（当時真言宗）を創建する《岩》 ・真誉誓故、宗本寺を創建《中》 ・応永年間に、尻高神社創建
			1395年（応永2年） ・須賀尾定善寺、創建と伝う《坂》
	1401年 ・第1回遣明船派遣	1401年（応永8年） ・長尾景忠5代の末孫景仲、白井長尾氏を継ぐ《東》	
		1403年（応永10年） ・伊玄入道三男重儀、尻高城主となり左馬頭と称し、役原城を築城《高》	
時			1409年（応永16年） ・五町田南沢寺の五輪塔（白狐城主金原左衛門尉某の墓）《東》 ・南沢寺兵火にかかり焼失す《東》
			1413年（応永20年） ・蟻川大霜、横尾千沢の宝篋印塔銘《中》
			1414年（応永21年） ・市城の五輪塔銘《中》
			1416年（応永23年） ・正道禅師、清龍寺再興《岩》
		1417年（応永24年） ・上杉禅秀の乱にて二宮憲忠戦死《中》	
		1426年（応永33年） ・小板橋景隆、吾妻郡伊参郷に來住《中》	
	1428年 ・正長の徳政一揆		1428年（正長元年） ・蟻川、倉沢の五輪塔銘《中》
	1432年 ・上杉憲実、足利学校再興		
		1438年（永享10年） ・長尾景仲が管領上杉憲実を白井に移す《東》	